

「アースデイとやま 2024」全体報告

アースデイとやま実行委員会一同（文責：事務局長 横畠泰志）

■はじめに

「アースデイとやま」は 1991 年以降富山県内各地で 5 月前後に毎年開催され、市民の手によるものとしては県内最大の環境啓発イベントとして、環境問題への取り組みや市民団体の連携についてさまざまな成果を上げてきました。2020 年、2021 年には新型コロナ感染症への対応のため、これまで例のない秋期のオンライン開催の形での実施となりました。2022、2023 年には富山城址公園を会場とし、例年通り対面での開催となりましたが、従来よりもかなり小規模な開催となりました。特に 2023 年には春期に特別ワークショップ「本当に持続可能であるために」を開催し、アースデイとやまにおいて初めての事例となる、秋期の対面開催を試みました。2024 年は「令和 6 年能登半島地震」（以下、能登半島地震）などを受けてテーマを「富山で地球を考えよう」とし、富山大学五福キャンパスを会場として、アースデイとやまの新たな幕開けを予感させるイベントとなりました。

アースデイとやま 2024

テーマ：「富山で地球を考えよう」

日 時：2024 年 6 月 9 日（日）10:00～16:00 場 所：富山大学五福キャンパス（富山市五福 3190）

共 催：富山大学、富山大学生活協同組合

後 援：富山県、富山市、富山県教育委員会、富山市教育委員会、富山県立大学、富山国際大学、富山短期大学、富山県生活協同組合連合会、（公財）とやま環境財団、とやま森づくりサポートセンター、（一社）環境市民プラットフォームとやま

■アースデイとやま 2024 のテーマについて（アースデイとやまホームページより）

今年は元旦に能登半島地震が起こるという大変な年明けとなりました。災害は少ないと言われる富山県内でも、断水、住宅の損壊や漁業・観光業への影響など、人々の生活にさまざまな影響がありました。普段は、かけがえのない地球環境に感謝し「守ろう」とする人々にも、人間の力など遙かに超える自然の力を見せつけられる出来事でした。暖かく優しく生命を育み、しかし時には恐ろしい力をむき出しにする地球。今年のアースデイとやまでは、地球の日であるアースデイが当初から掲げていた「地球の環境」についてだけでなく「地球とそこに生活する人々」という広い視点で、地球科学の専門家や、多国籍の出展者とともに、私たちの暮らす「地球について考える」きっかけとなる一日を目指します。

■アースデイとやま 2024 実行委員会の運営体制、準備の経緯について

昨年度は実行委員会企画や会場の設計、当日の運営で大きな力を発揮していた複数の有力な実行委員が個人的事情から実行委員会を離れ、今年度も人員不足の元での準備となりました。また、当初会場として予定していた富山城址公園が能登半島地震の影響で使用できなくなり、手探りの状態からの運営となりました。いくつかの代替地を検討しましたが、最終的に 2008 年に一度だけ会場としたことのある富山大学五福キャンパス

で開催することになりました。富山大学を共催団体に加えると会場費が無料になり、備品の貸与が受けられるなどの大きな利点がありますが、これにあたってはいずれかの学部の代表者に了解を取る必要があり、松田恒平・理学部長に相談したところ、ご快諾をいただきました。

実行委員会の役割分担として、まず実行委員長を 2018 年以来 6 年間この役割を務めてきた横畠泰志氏（富山大学理学部）から、事務局長を務めてきた遠山和大氏（同大学総合情報基盤センター）へと交代し、副実行委員長にさまざまな活動を行っている多数の市民団体との繋がりのある橋本順子氏（土遊野農場）が就任されました。事務局長の人選には紆余曲折がありましたが、富山大学が会場になったことから、最終的に横畠氏が引き継ぐことになりました。2023 年 11 月 15 日と 27 日の 2 回の準備会の後、実行委員会の会合は 14 回開催され、第 1 回（2023 年 12 月 4 日）～第 14 回（2024 年 6 月 3 日）まですべて ZOOM によるオンライン開催となりました。コロナ禍でのオンライン開催が続いたこと、その後の 2023 年にあまり多くの出展・出店者が確保できなかったことにより、4 年間にわたり出展・出店者からの賛同金を含む出展・出店料が十分に確保できておらず、今年も財政的にも非常に厳しい状況下での準備となりました。しかし、会場費が無料になり、展示パネルなどの多くの備品が大学から貸与されたことで、大きな困難なく準備を進めることができました。課題となったのはボランティアの募集で、これまでに培ってきた富山大学内の学生集団の協力がコロナ禍以降ほとんど得られなくなってしまい、最終的に前日の準備などで事務局長の研究室の学生や大学院生の力を少なからず借りることになりました。

■アースデイとやま 2024 の広報活動について

アースデイとやま 2023 では時間的、予算的な制約からポスターがこれまでに例のない白黒のものとなりましたが、今回は出展者として参加していただいたことのある寺子こどもえんの園児たちに書いていただいた図案を多数貼りつけた、ユニークなカラーのポスター（図 1）を作成できました。昨年同様に、ホームページにリンクする QR コードを印刷しています。^{おもて} 表面に同じ図案を用いたチラシも 5,000 部作成し、出展・出店者や教育機関、会場となった富山大学の教員等に配布しました。ホームページの他に、従来同様に Facebook も開設しました（<https://www.facebook.com/EarthdayToyama/>）。

昨年の議論で、特に若い世代に対してはホームページや Facebook より、Instagram の訴求力・拡散力が強いということがわかつっていましたが、今年も実際に運用には至らず、来年度以降に課題を残しました。一方、新しい取り組み



図 1. アースデイとやま 2024 のポスター

として、関係団体（環境市民プラットフォームとやま）のFacebookで有料の広告を立ち上げたところ、8532回の閲覧と337の「いいね」がありました。今後も同様の取り組みを行うべきと思われます。

マスコミには基本情報の提供用のチラシを作成し、富山県庁内の県政記者クラブに棚入れを行い(6月5日)、当日の取材を促しましたが、直前の時期になったためか、当日は新聞社などの取材はありませんでした。

■アースディとやま 2024 の当日の取り組みについて

「アースディとやま 2024」は、2024年6月9日(日)に開催されました。当日は昨年度の約2倍に当たる48の団体・個人による出展・出店が予定されていましたが(図2)、当日のキャンセルが2団体ありました。天候にも恵まれ、予定通りの開催となりましたが、反省点の一つとして、各団体の使用するテントのサイズを事前に確認しておらず、大学食堂付近のテントの配置を当日になってかなり変更しています。また、毎年行っている消防署の立ち入り調査では、昨年度は使用不可能な消火器を準備していた出店者がいましたが、今年は特に問題は見られませんでした。以下にステージ(図3)でのプログラムを記します(♪は音楽演奏)。

- ・10:00～ 遠山和大さん(アースディとやま 2024 実行委員長) あいさつ、岡崎蓮次郎さん(エレアコ)(♪)
- ・10:20～ お嘶 にやんこ行者さん(♪)
- ・10:40～ 能登半島地震災害支援活動報告
- ・11:00～ ネパール&モンゴルダンスさん(♪)
- ・11:30～ 谷中秀治さん(コントラバス)と石川征樹さん(ギター)(♪)

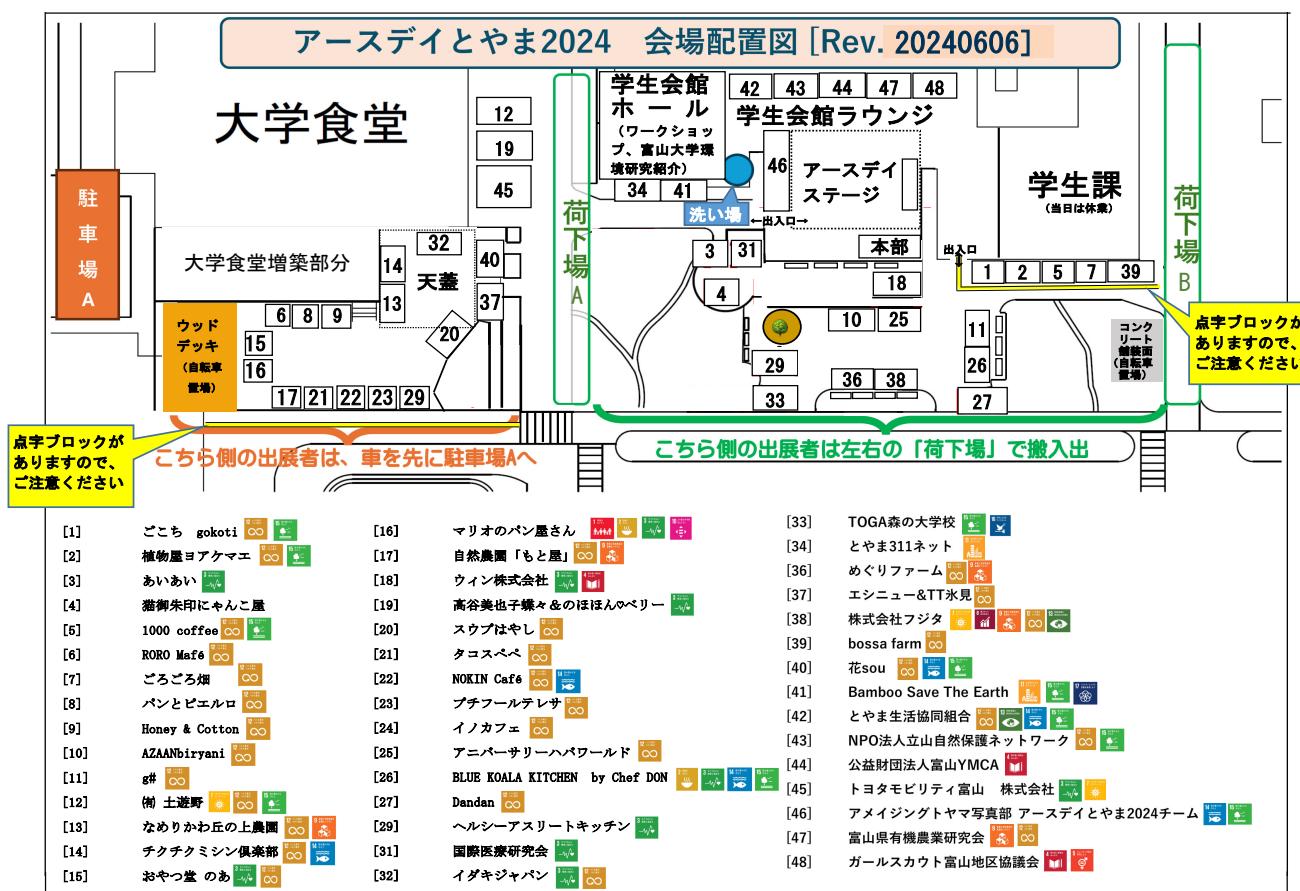




図3. アースデイ・ステージの様子（左：ステージ観客席に集まった人々；右：アースデイユーストーク）

- ・12:00～ 富山大学バンドさん「Amaryll!s」、「情刹」、「PENTATONE」(♪)
- ・12:30～ アースデイとやま 2024 ユーストーク 「災害のため私たちができること」

大浦千和さん ゲスト：大西宏治さん（富山大学人文学部）

- ・13:00～ マリオと楽しい仲間たちさん（竹宮マリオと自由な飛び入りセッション）(♪)
- ・13:20～ 能登半島地震災害支援活動報告
- ・13:30～ どれみぱんさん [まいこ (vo) さん、のぶ (perc) さん、ゆい (key) さん] (♪)
- ・14:00～ sandpit jazz trio (サンドピットジャズトリオ) featuring G2 さん (♪)
[辻裕也 (ts) さん、大和邦彦 (dr) さん、中島伸高 (ba) さん、飯野由意 (key) さん]

ゲストボーカル・辻井直美 (Vo) さん

- ・14:30～ ベリーダンス 高谷美也子蝶々&のほほん♡ベリーさん (♪)
- ・14:50～ フルート演奏 沢崎ゆみさん (♪)
- ・15:20～ ディジュリドゥ演奏 Hide Yidaki Japan さん (♪)
- ・15:40～ アフリカンパーカッション演奏 RORO (口口) さん (♪)
- ・16:00 閉会挨拶 橋本順子さん（アースデイとやま 2024 副実行委員長）

アースデイとやま 2024 では、会場が富山大学であることから、富山大学で行われているさまざまな環境問題に関する研究や活動をポスター発表で紹介する企画、「環境やってます in 富大 Part II」を学生会館ホール内で行いました（Part I は 2008 年に実施）。会場には「山と環境」、「海と環境」、「生き物と環境」、「生活・

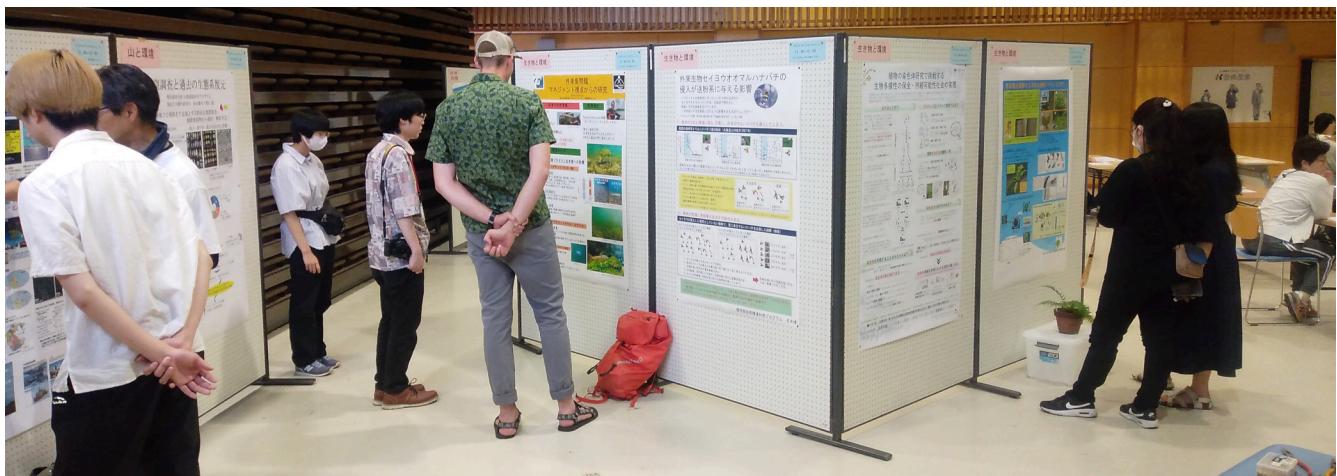


図4. 「環境やってます in 富大 Part II」のポスター展示と集まった来場者

教育・防災と環境」の4つのコーナーを設け、以下の先生方と大学生協の関係者による17件のご発表がありました。大半の発表者には、時間を決めて会場で直接説明を行っていただいています（図4）。

<山と環境>

- ・都市デザイン学部 杉浦幸之助先生：「立山連峰内蔵助カールの眺め：変容する雪氷環境」
- ・都市デザイン学部 堀田耕平先生：「立山火山地獄谷における地殻変動観測」
- ・理学部 柏木健司先生・大学院生 増山 慈さん：「洞窟調査と過去の生態系復元」

<海と環境>

- ・理学部 堀川恵司先生：「海底堆積物や生物などを対象に先端的な化学分析で環境の状態を解析する!!」
- ・都市デザイン学部 田口文明先生：「海洋温暖化の「ホットスポット」日本海における水温ジャンプ」
- ・理学部 酒徳昭宏先生：「真珠形成母貝アコヤガイの大量死や低品質真珠形成を引き起こす殻黒変病に関する研究」

<生き物と環境>

- ・理学部 田中大祐先生：「富山県の大気・水環境中に生息する微生物の解析と利用」
- ・理学部 太田民久先生：「安定同位体と生物」
- ・理学部 佐藤杏子先生：「植物の染色体研究で挑戦する生物多様性の保全・持続可能性社会の実現」
- ・理学部 蒲池浩之先生：「重金属を蓄積する奇妙な植物「ヘビノネゴザ」」
- ・理学部 石井 博先生：「外来生物セイヨウオオマルハナバチの侵入が送粉系に与える影響」
- ・理学部・サステナビリティ国際研究センター Peterson Miles Isao 先生：「外来魚問題 マネジメント視点からの研究」
- ・理学部 横畠泰志先生：「日本のモグラたち、それぞれの課題－絶滅危惧種も普通種も」
- ・理学部 木下豪太先生：「冬に白くなるノウサギの進化と気候変動」

<生活・教育・防災と環境>

- ・理学部 佐澤和人先生：「化学計測をベースとした体系的な環境教育」
- ・都市デザイン学部 安江健一先生：「活断層研究と調査手法－地震の解明に挑む－」
- ・富山大学生活協同組合 学生委員の皆さん：「富山大学生協学生委員会の環境活動」

この他に、学生会館ホールでは2つのワークショップを行いました（図5）。一つは西アフリカ・トーゴ出身のパーカッショニスト RoRoMafe さんによる民族音楽の演奏、「アフリカのリズム」で、楽譜を使わず、言葉でリズムを歌い、楽器を叩く独自の方法でアンサンブルを行っていただきました。もう一つは「環境やってます in 富大 Part II」にもご出展いただいた富山大学・安江健一先生による「ゲームで学ぶ災害」で、ゲームを通して風水害を体験的に学ぶ、大変わかりやすいワークショップを行っていただきました。



図5. 学生会館ホールで行われたワークショップ（左：「アフリカのリズム」；右：「ゲームで学ぶ災害」）

■アースディとやま 2024 の参加者数について

オンライン開催の場合を除く、近年のアースディとやまの一般参加者数は、富山市ファミリーパーク無料ゾーンを会場としてきたことから、有料ゾーンの来場者数（参加者数の最大推定値と解釈される）と無料ゾーンの来場者数（参加者数の最小推定値と解釈される）の中間の値を取って推定されてきました。その結果、2019年においては 2,500 人前後、2022 年は概ね 1,800 人と推定しています。こうした一般来場者数には、イベントの内容や情報宣伝活動の他に、天候や同じ日に開催される他の行事の影響などの外部要因が影響します。昨年はこれまでのような根拠になる数字が得られないことが予想されたので、写真撮影による来場者数の推定を行い、257.6 人という結果を得ました。今年もこれと基本的に同じ方法で、来場者の推定を行いました。

方法としては、アースディとやま 2024 の会場において、11 時 00 分前後、13 時 00 分前後、15 時 00 分前後の 3 回、理学部の建物から見た学生会館前の広場（図 5 (a)）、その広場から見た生協食堂側の会場（図 5 (b)）、学生会館内のホール（図 5 (c)）、学生会館内のステージ（図 5 (d)）で、ほぼ 2 時間おきに 4 枚ずつ写真を撮影し、写っている人数を数えて合計し、平均値を算出し、さらに写真上で前後に重なったり、物陰などの死角に隠れたり、撮影範囲の外にいる人数を補正するるために、直感的ですが 1.5 を乗じました。

それらの写真を拡大して写っている人数を数えると、11 時 00 分が 150 人、13 時 00 分が 119 人、15 時 00 分が 108 人となり、平均すると 125.67 人が会場にいたことになります。

アースディとやまの来場者の平均滞在時間は、2008 年（富山大学）と 2009 年（富山灌水公園）のアンケート調査ではそれぞれ 139.3 分、153.2 分となっており、会場もテー



(a) 学生会館前の広場（11：04 撮影）



(b) 大学食堂付近の会場（11：04 撮影）



(c) 学生会館ホールの内部（11：06 撮影）



(d) 学生会館内のステージ（11：10 撮影）

図 5. アースディとやま 2024 の来場者数の推定に用いた会場の写真

マも天候（2009年は雨天）も異なるにも関わらず、大きな違いはありません。そこでおよその滞在時間を150分とすると、今回は6時間でしたので、 $360/150$ で平均2.4回来場者が入れ替わっています。そこで、

$$125.67 \text{ 人} \times 1.5 \times 2.4 = 452.4 \text{ 人}$$

が今年の推定来場者数となりました。コロナ禍前の富山市ファミリーパークで開催していた頃よりも少ない値ですが、会場で来場者数を直接数えているので、こちらのほうが正確であると考えられ、ほぼ同じ方法で推定した昨年の2倍弱になります。問題点としては、一般来場者よりも滞在時間が長いはずの実行委員やボランティア、出展・出店者を含めて数えている点で、仮にそれらを区別したとすると、入れ替わり回数が少ない集団を含むことになるため、推定値はさらに下がります。

■アースディとやま2024の反省点と今後の展望について

2024年7月7日にアースディとやま2024の反省会を富山大学理学部で行いました。例年のように多数の意見が出され、すべてを網羅することはできませんが、ここまでに挙げた事柄に加えて、来年度への課題として3つの点を記しておきます。

- ・ボランティアの募集については、コロナ禍でこれまでに貢献してくれていた団体との関係が希薄になっていた上に連絡が遅くなり、また開催時期が4学期制の第1ターム（主に4~5月）の試験時期と重なったため、学生団体の参加がほとんどませんでした。今後はこれまでの団体に加えて、2023年度のような高校生や、大学の新しい環境系・SDGs系サークルとの繋がりを模索するべきでしょう。
- ・能登半島地震の影響で初期に会場の変更を余儀なくされたが、結果的に富山大学のキャンパスを会場にすることことができました。大学を共催団体にできたので会場費や備品代が節約でき、内容にも先生方の研究発表のようなアカデミックな面も組み込みました。2008年の五福キャンパスでの開催の時には駐車場の不足が大きな課題となりましたが、今回は一般来場者に公共交通機関の使用をポスターなどで呼びかけた結果、問題とはなりませんでした。一方で、大学のホームページでの情報宣伝ができなかったなどの反省点がありました。
- ・全国各地のアースディで行われているディッシュ・リターン（一般来場者による食器のリユース活動）は、アースディとやまではコロナ禍以降実施できていませんが、今回も食事の容器の扱いは出店者に依存することになり、アースディの大きな特徴の一つを発揮できませんでした。会場に流しを設けて出店者に使っていただくことに留まっています。

この他にもさまざまな反省点がありますが、アースディとやま2025は「富山でつくるみんなの未来」をテーマに、再び五福キャンパスを会場とする予定で準備が動き出しています。全国的にも1991年から毎年欠かさず純粋に一般市民の手で開催してきたアースディとやまは高く評価されています。日本各地のアースディの緩やかな連合体であるアースディ・ジャパン・ネットワークが作成している“Earth Day Map 2025”によると、2025年には全国で約100件のアースディ関連行事が予定されているようですが(<https://earthday-japan-network.com/earthday-map-2025/>)、富山県内でも今後も可能な範囲で、「人々の心に環境の火を灯す」活動を続けていきたいものです。

■アースディとやま 2024 の会計報告について

最後に、アースディとやま 2024 の収支（表 1）について述べます。

アースディとやまは毎年、前年度からの繰越金で情報宣伝などの比較的早期に必要となる経費を貯ってきましたが、3 年間にわたる新型コロナ感染症の影響によるオンライン開催の影響などで、今年度は昨年度からの繰越金が 6 万円ほどとなり、今後の活動の継続が危ぶまれていました。最近数年と同様に富山大学生協からの賛同金がなく、当年度の収入については 16 万円ほどの予算額でしたが、出展・出店者が昨年より多く、決算額は予算を上回りました。一方で会場費の無料化や備品費の削減など支出も大きく抑えられ、ポスター・チ

表 1. アースディとやま 2024 収支（左：収入の部；右：支出の部；2024 年 12 月 31 日現在）

2024年度 決算報告					
自.2024年1月1日 至.2024年12月31日			アースディとやま実行委員会		
収入の部	科目	摘要	本年度予算	本年度決算	比較増減
賛同金			151,000	167,000	16,000
	出展出店料	3,000円*37+5,000円*5+1000円*1	120,000	137,000	17,000
	一般賛同金	実行委員	20,000	17,000	-3,000
	後援料	富山県生活協同組合連合会	10,000	10,000	0
	募金箱		1,000	3,000	2,000
当日収入			10,000	12,000	2,000
	備品貸し出し	テント重り1,000円*10	5,000	10,000	5,000
	実行委員会企画	(食券買い取り)	5,000	2,000	-3,000
当年度収入合計			161,000	179,000	18,000
	前年度繰越金		61,047	61,047	0
総合計			222,047	240,047	18,000
支出の部					(単位:円)
会場費	科目	摘要	本年度予算	本年度決算	比較増減
			49,500	0	49,500
	事前説明会会場費	富山大学生協共催により無料	2,500	0	2,500
	当日会場費	富山大学共催により無料	46,000	0	46,000
	当日設備使用	電気・水道（同上）	1,000	0	1,000
保険料	当日保険料		9,000	9,910	-910
ボランティア			33,000	21,237	11,763
	ボランティア謝礼	食事券買い取り	29,000	18,700	10,300
	ボランティア消耗品	ボランティア用お茶、茶菓子	4,000	2,537	1,463
設営			45,000	20,000	25,000
	テント等備品レンタル	謝礼込	13,000	10,000	3,000
	車両運搬費（バンブー）		11,000	0	11,000
	シンク設置		5,000	0	5,000
	備品レンタル（レントオーナー）	貸出分込	5,000	0	5,000
	車両運搬費（レントオール）		1,000	0	1,000
	音響機材謝礼		10,000	10,000	0
広告宣伝費			16,000	31,207	-15,207
	HP管理費		2,000	2,002	-2
	チラシ印刷		14,000	29,205	-15,205
事務局経費			8,500	10,511	-2,011
	通信費		2,500	0	2,500
	消耗品	名札25組、ごみ袋、養生テープ、ペン、除菌ウエットティッシュ	1,000	3,595	-2,595
	反省会	飲料・茶菓子代（10人参加）	0	2,747	-2,747
	振り込み手数料		2,500	1,650	850
	その他	SDG s ラベリング用フィルム等	2,500	2,519	-19
当年度支出合計			161,000	92,865	68,135
	翌年度繰越金		61,047	147,182	86,135
総合計			222,047	240,047	18,000

ラシの作成に関わる経費も大きく削減しています。また、従来実行委員会からの補助を行っていた反省会（打ち上げ会）を簡素化し、ほとんど参加者の負担のみで行っています。それらの結果、当年度の支出額は9万円ほどに抑えられ、繰越金は昨年を大きく上回る15万円ほどとなり、コロナ禍以後の窮屈な状況をほぼ脱却しました。会計監査（右は監査報告書）においても、問題のないことが確認されました。

2024年7月19日

アースディとやま 2024 実行委員会

実行委員長 遠山和大様

「アースディとやま 2024」会計監査について

今年度アースディとやまの会計監査を実施しましたところ、2024.7.17 日付の「令和6年度決算報告」の監査結果のとおりであることを報告いたします。

アースディとやま 2024 実行委員会

会計監査 金谷敏行

付記. 併催行事「夢みる給食」上映会の開催について

アースディとやま実行委員会の関連団体である一般社団法人環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長 堀 勇人氏の提案により、アースディとやま 2024 の当日に富山大学五福キャンパス黒田講堂で、オーガニック給食についての映画上映会を行いました。

【参加者数】

55名（一般44人、学生3人、高校生以下7人、未就学児1人）

【プログラム】

13:00 映画「夢みる給食」上映（77分）

14:20 休憩（舞台転換）

14:30 トーク「オーガニック給食の潮流・可能性」

<ゲスト>

・今村拓郎氏：株式会社日本農業新聞業務局局長

・古田貴子氏：「ごちそうプロジェクト」自然栽培給食プロジェクト団体～まんま～代表

ナビゲーター：堀 勇人（PECとやま）

15:30 終了

